

ZANDEN Model 120 の展開(70) ーベーターヴェンを聴き直す(5)ー

1. 始めに

前報(69)に引き続き、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤を聴き直していきます。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベーターヴェンの弦楽四重奏の下記を選定しました。

ドイツグラモフォン 479-8121A・B 479-8122A・B

STREICHQUARTTET F-dur Op.19-1

STREICHQUARTTET e-mor Op.19-2

STREICHQUARTTET C-dur Op.19-3

AMADEUS QUARTTET

上記は下記で報告しています。

[アナログ再構成後の活用\(14\)](#)

3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

ドイツグラモフォン盤なので、TELDEC、逆相、第4時定数Midで聴いていきます。

3曲ともお馴染みの曲で、オリジナルの1960年録音からの重量盤での復刻のようです。音質それ自体はそれほどよくありませんが、アマデウスらしい緊張感のある厳しい演奏スタイルが伝わってきます。

なお、同じアマデウスの演奏が、ベートーヴェン全集の前報(12)と前報(13)でも収録されていますので、再度取り出して、聴きくらべてみましたところ、演奏の印象は変わりませんので、マスターは同じもののようです。音質は、重量盤でない全集の方が若干良さそうです。

4. まとめ

前回の試聴以降、前報(24)で報告しましたようにZANDEN Model 120の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上